

心のきずな61
キャンペーン
報告

就学支援金の支給について

震災対応委員会委員長 谷明彦

日本PTA全国協議会「心のきずな61キャンペーン」就学支援事業につきまして、ご支援ご協力いただきまして、日本各地のPTAや、多数の関係各位に深く感謝申し上げます。

平成26年2月18日の日本PTA理事會にて承認された就学支援金の支給について、ご報告いたします。

日本PTA就学助成連盟 委員會より報告された、約600人の申請された児童生徒に、平成26年3月上旬に、約3億5000万円の就学支援金を、一括(義務教育の期間)して支給し、支給の対象者は、平成25年4月1日時点の小中学校に在籍する児童生徒で、各

多くの方々からのご支援のおかげにより、子どもたちに届くことが遅くありませんでした。申し訳なく、お詫いいたします。私たちは、東日本大震災

委員会活動報告

総務委員会

今年度の総務委員会として、まず、公益法人化に伴う日本PTAのスタンスやかねてから話が出ていた政令市の新たな入会について議論を行いました。公益性という観点では「1000万人に近い会員を有する組織で子どもの健全育成を願う行動していく組織である」ということの確認。その上で各協議会の情報をお聞き、地元協議会の状況を考えながら、現在の61協議会にとりまらず入会の意思があれば新規入会を受け入れ、日本中の子どもに私達への思いや活動成果が平等に届くよう、入会申し込み書の様式を整備いたしました。

また、「青少年のインターネット利用」に関して日本PTA全国協議会のアドバイザーとして発信できるよう提言をまとめました。インターネットを利用することから避けて通ることができない。今日、保護者の責任や役割を提言しました。また、日本PTA全国協議会の役割も明確化されています。

その他、コンビニエンスストアや一般書店における成人雑誌の陳列方法など、子どもたちを取り巻く環境をどのように創り上げていくのか、地域を挙げて対応すべき内容なども意見交換し、次年度へのバトンを受け渡す委員会を実施しました。

環境対策委員会

情報が多様化する時代、私たちは何を子どもたちに伝え、何から子どもたちを守らなければならないのか。保護者としての役割と責任が問われる時代になっています。

環境対策委員会は、日本PTA全国協議会から「行へば」を考えた、平成25年度版の「環境対策」に関する意識調査(平成24年)のダイジェスト版をリーフレットとしてまとめ、全国の保護者の首長に届けていたできるように発行しました。

厚生委員会

厚生委員会の主な活動として、「親子で話そう! 家族のきずな、我が家のルール」をテーマとした「三行詩のコンクール」があり、この事業は、家庭内のコミュニケーションなどによって育まれる家族のきずな、家庭でのルールづくり、基本的な生活習慣づくりなどを話し合うことの大切さを呼びかけていく大

め、文科科学省と日本PTA全国協議会が共催で行なっているものです。

今年度の応募総数は、10万6245作品となり初めて10万作品を超え、取組みが全国に広がっていることがうかがえます。応募された作品は、平成25年11月に1・2次選考、12月に最終選考を行ない、平成26年3月27日に文科科学省旧庁舎にて表彰式を行ないました。

私たち厚生委員会は、この三行詩を通じて、子どもたちを保護者の深い愛情をあらためて実感し、また保護者は子どもたちの心に寄り添う、そのことにより家族のきずなをさらに強めることができるものと思っております。

この事業の大切さを認識するとともに、文科科学省とも意見交換を行ない、さらに充実した事業になるよう努力していきたいと思っております。

教育問題委員会

平成25年度「教育に関する保護者の意識調査」を行い、子どもを対象とする諸外国との国内交流や研修を実施する」というもので、各地方協議会より推薦さ

れた中学1年生計36名が参加し、国立青少年教育振興国内研修事業として、国機構のスタッフ(リーダー)及び外国人留学生各10名とともに、つくば市立青少年教育振興機構の全オークラフロンティアホテル及び教員研修センターを会場に、3月26日(水)～29日(土)の3泊4日で行なわれました。

この事業の目的は、「国際化社会で活躍できる次世代を担う人材を育成するため、子どもを対象とする諸外国との国内交流や研修を実施する」というもので、各地方協議会より推薦さ

社会教育団体としての役割を担う育友会

子どもたちを健全にたくましく育てるために

本校は、東経19度51分、北緯33度30分に位置し、上野台と呼ばれる玄玉特有の丘陵性白地にある。また、本校の所在地である海防は、長崎の佐賀原の島々を臨むこと入地域である。対馬暖流の影響を受けて、寒暖の差が少なく、過ごしやす多い地域でもある。全国的には原子炉を4基持つ海原原子力発電所が知られていて、学年クラス、対峙クラス、生徒数、77名の小規模校である。本校PTAは、開校とともに学校後援会として

Column 学校の窓から



シリーズ⑧

育環境を向上させるとい、会員に学校行事等に積極的に参加してもらい、教養を高める研修にも力を入れ、社会教育団体としての役割を担って

円滑に進むよう努力している。専門部には、「父親部」「母親部」「保体部」に積極的に参加してもらい、教養を高める研修にも力を入れ、社会教育団体としての役割を担って

育友会新聞の発行・行事等の取材、撮影等を行っている。

本校の育友会活動の中で特に特徴がある活動を紹介すると、まず、事業が子どもたちを健全にたくましく育てる地域である。

各部の主な活動を紹介する。父親部は父親相互の親睦を図り、月1回の登校指導・長期休業中の巡回指導・学校環境の整備等を行っている。母親部は母親相互の親睦を図り、バス・餅つき会・給食試食会での準備・お世話等を行っている。保体部は保健体育活動を通して会員の親睦を図り、大会に参加した者、全員が体育大会を盛り上げる等を行っている。広報部は広報活動を通して会員に広報活動を通じた親睦を図り、年3回の親睦を図り、年3回の育友会新聞の発行・行事等の取材、撮影等を行っている。

私たち佐賀原中学校区は、保護者と地域そして学校が、協力連携しあって、子どもたちを健全にたくましく育てる地域である。

つくばっ! 仲間との絆 語ろう! 夢を

国際交流・国内研修事業

本年度の国際交流事業は、日本PTA国際交流・国内研修事業として、国機構のスタッフ(リーダー)及び外国人留学生各10名とともに、つくば市立青少年教育振興機構の全オークラフロンティアホテル及び教員研修センターを会場に、3月26日(水)～29日(土)の3泊4日で行なわれました。

この事業の目的は、「国際化社会で活躍できる次世代を担う人材を育成するため、子どもを対象とする諸外国との国内交流や研修を実施する」というもので、各地方協議会より推薦さ



夢を語り合った仲間たちと一緒に (3月29日 オークラフロンティアホテルつくば前広場にて)

平成25年度 「教育に関する 保護者の意識調査」 中間集計(速報)

この調査は、学校教育に
おける新たな取り組みと家
庭でのしつけやコミュニケ
ーションについて、平成14
年度から23年度まで10年間
実施し、平成24年度には、
これまでの調査結果を総括
したリーフレットを作成し
ました。

今年度の調査について
は、10年間の調査の総括を
終えたことを踏まえ、より
保護者の意識や意向を把握
するため、担当する教育問
題委員会に所属する地方協
議会の会長が議論を重ね、
調査項目を精選しました。
このほど、調査の中間集
計(速報)がまとまりまし
たので、その一部を紹介し
ます。

本誌に詳しく分析した調
査結果報告書は取りまとめ
ができた後、日本PTAの
ホームページで公開しま
すので、期待ください。

■調査目的
教育に関する保護者の意
識を調査・分析し、日P並
びに全国のPTAがそれぞ
れの立場で今後の教育のあ
り方やPTA活動を考える
ための資料とするため。

■調査対象者
日Pに加盟するPTA会
員のうち小学5年生と中学
2年生の保護者4800
人。

■調査方法
日Pに加盟する地方協議
会を通じて配布・回収。

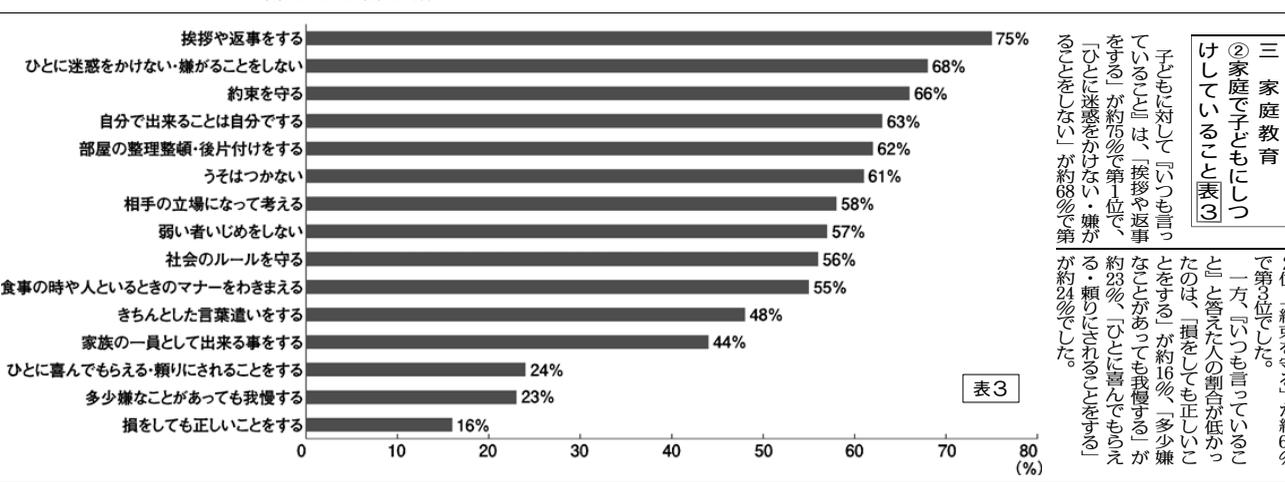
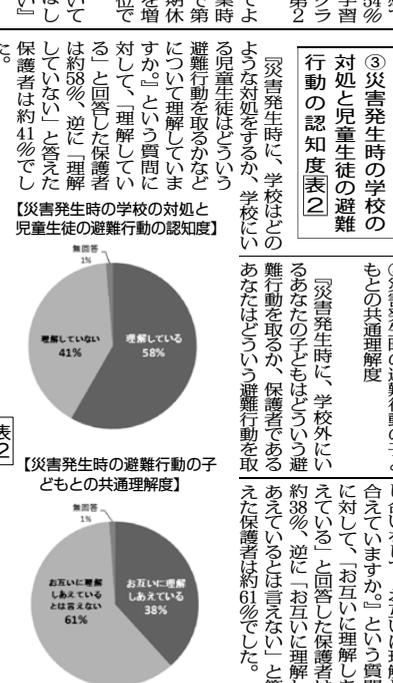
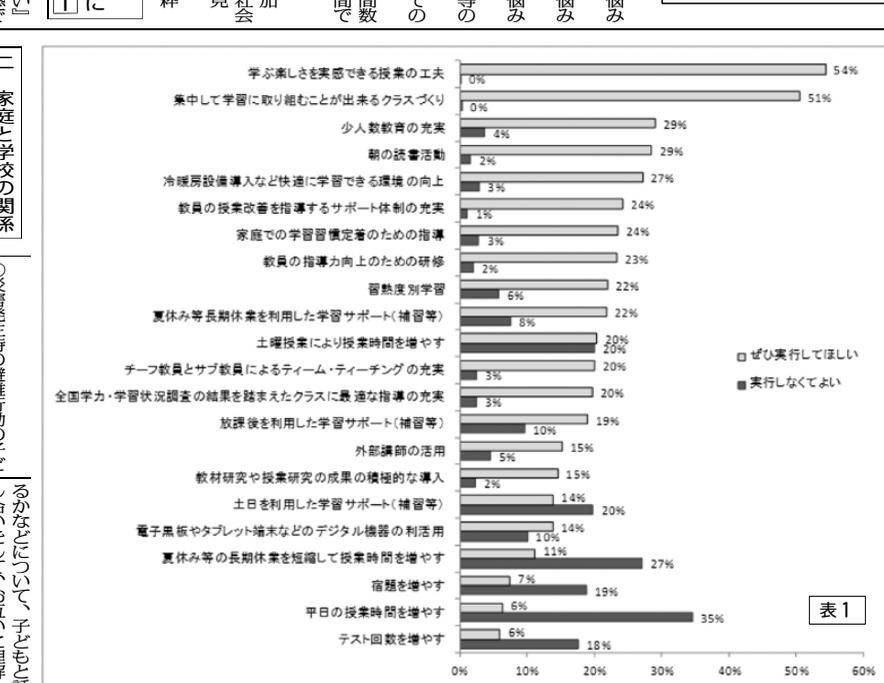
■調査期間
平成25年12月9日(月)
～20日(金)

■調査項目
一 学校教育
①学校教育目標の認知度
②子ども身につけさせ
たいこと
③学力向上で学校に求め
たいこと
④学力向上に向けて家庭
で行っていること
⑤学校に保護者や地域
の人が行きたいか
⑥教員の多忙化について
の意見
⑦学校の情報公開の度合
二 家庭と学校の関係
①家庭と学校のコミュニ
ケーション
②学校に相談があるとき
③災害発生時の学校の対
処と児童生徒の避難行
動の認知度
④災害発生時の避難行
動の子どもの共通理解
度
⑤いじめ問題に対する学
校の対応
⑥いじめ問題が起きた場
合の学校からの連絡
⑦子どもがいじめの被害
者であった場合の学校
への連絡
三 家庭教育
①家庭での子どものし
つけ
②家庭で子どもについて
していること
③授業参観の保護者の行
動

④子育てについての悩み
と不安
⑤子育てについての悩み
と不安の内容
⑥子育てについての悩み
と不安の解決方法
⑦ケータイ・スマホ等の
正しい使い方
⑧ネットの脅威についての
PTAの取り組み
⑨子どもと過ごす時間数
⑩子どもと過ごす時間で
していること
その他
①PTA活動への参加
②子どもを取り巻く社会
環境についての意見

■中間集計(速報) 抜粋

一 学校教育
③学力向上で学校に
求めたいこと表1



②家庭で子どもにし
けていること表3

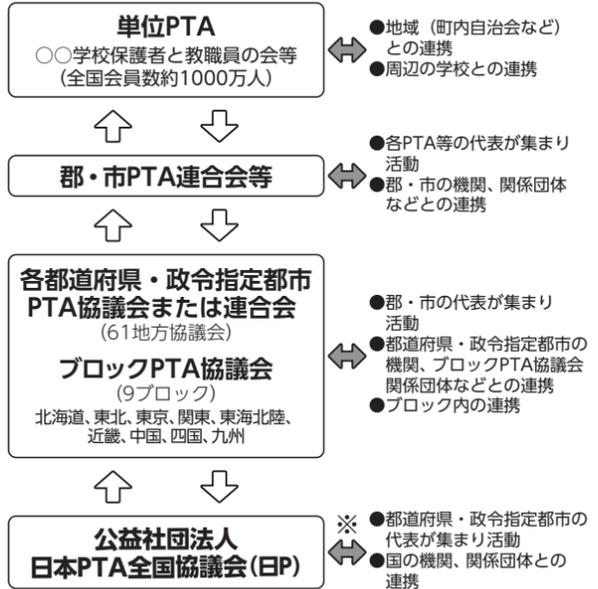
2位、「約束を守る」が約66%
で第3位でした。
一方、「いつか言っているこ
と」と答えた人の割合が低かっ
たのは、「損をしても正しいこ
とをする」が約16%、「多少嫌
なことがあっても我慢する」が
約23%、「ひとに喜んでもらえ
る・頼りにされることをする」
が約24%でした。

日本PTAとは

新年度を迎え、新役員の皆さんには、日本PTA全国協議会とは分りにくく、遠い存在のように映っているのではないのでしょうか。そこで、簡単に日本PTA全国協議会(日P)の紹介をします。

日Pには、各都道府県・政令指定都市PTAの代表が集まり、子どもたちの心身ともに健全な成長を図るため、全国に共通する課題について話し合い、国の機関や関係団体とも連携を図りながら、社会教育や家庭教育の充実に向けて取り組んでいます。(図※)

各PTAの関係図



日Pホームページのご紹介

<http://www.nippon-pta.or.jp/>

異国情緒豊かな長崎で 集い、語らい、学びあい
~きてみんね さるいてみんね よかとこばい~

第62回日本PTA全国研究大会 第59回九州ブロックPTA研究大会

平成26年 8月22日(金)・23日(土)

長崎大会

大会趣旨

国際化、情報化、少子高齢化、核家族化が急速に進む時代の急速な変化の中で、PTAでは新たな対応を始めなければならない。親子のふれあいを大切に、困難に負けない強さや人を思いやるやさしさを持ち、ねばり強く努力する子どもを育成することが、私たちPTAの使命である。長崎に集い、交流を深め、相互に研修し、実践力を高めていきます。

メインテーマ

- 家庭・学校・地域との強い絆で連携を図るPTA活動
- 平和な国際社会を担う子どもたちを育てるPTA活動
- 家庭の教育力の向上を目指すPTA活動
- 子どもと本気で向き合い、かけがえのない命を大切に育てるPTA活動
- 未来を生きる子どもたちのために、学び合い、繋がりあい、成長しあうPTA活動

8月23日(土)
全体会記念講演
長崎県立総合体育館



高野 優氏 育児漫画家

デザイン事務所を経て、イラストレーターになる。結婚を機に育児漫画家へ。講演会では、漫画を描きながら話をするという独特なスタイルで、育児に関するテーマが人気。官庁や自治体、教育関係、子育て支援団体のほか企業からも講演依頼が多い。「日頃子育てに追われる保護者に、ゆっくりとした時間を過ごしていただく。」を心がける。

「あるPTA会長の日記から」

300人規模の小学校でPTA会長となり、3年近くが経ちました。会長になる前々年に、地元で電気工事業を経営していた前会長から「初年度の副会長はいいとして、単P会長1年目に区PTA連合協議会の会長もやらなくてはならないことになっていく。あなたならできる。」と言われ、何のこともわからなく、自分自身(3人兄妹)も同小学校の出身であり、また、地元で自営業を営んでいる仲間からのお誘いということもあり、お受けすることにしました。

1年目は何もわからないまま区P連会長として、とにかく「他校の皆さんと友達になろう」という思いで、ゴルフコンペや忘年会を企画したりして、何とか終えることができました。

2年目は前年の様々な交流から「親父の会」を立ち上げました。また、学校評議員会で地元の木が弱っているから何とかして欲しい。造園エクステリア業のあなたしかできない。」と要請され(笑)、親父の会メンバーと先生方、地元の方々にも参加いただき、何とか木の保護することができました。3年目はお母さんや子どもたちにも参加してもらおうと、「親父の会」を「親子の会」に名称変更し、活動の充実とPTAバレーボールチームの強化をして頑張っています。

今、感じるのは「自分は運がいい」ということです。何かをやるうとする、必ず協力してくれる仲間が現れてくれます。「感謝」の一言に尽きます。

「仲間へ感謝」

今年度は、小学校PTA会長就任前、ひよんなどから本年度の引き受けたのも正直なところ大変であり、赤坂まで企画会議や作業に通うことへの不安もなかったと言え、世界への好奇心が強かった。あれから9ヶ月、時間のやり繰りが大変だと思ったことは確かにありましたが、自分の中に枠を設けず、今までやってきたこと、自分には知らないことが沢山あることが分かり、よき人ときよき出会いにも恵まれました。

今号は委員による福島取材記事があります。取材時の現場感が委員の皆様には伝わればと思います。

「あるPTA会長の日記から」の原稿募集!

- 親しまれる紙面づくりを目指して、次号掲載分より、単位PTA会長の皆様からの原稿を募集します。PTA会長として日々感じることや考えていること、子どもたちに対する思いなどを自由にお書きください。ご投稿をお待ちしています。
- 文字数：1000字程度(タイトルをつけてください)
- 締切日：6月9日(月)
- 「あるPTA会長の日記」というテーマのため、匿名での掲載となります。また、学校名や個人名は出さないようにお願いします。
- 他紙との二重投稿はご遠慮ください。また、原稿返却はできません。
- 紙面の都合上、修正を入れさせていただきます。ご了承ください。
- 所属PTA、氏名、電話番号、メールアドレスを明記してください。採用された場合は、こちらからご連絡させていただきます。送付先：公益社団法人日本PTA全国協議会宛、郵送にてお願いします。



そよ風通信
小学校PTA会長就任前、ひよんなどから本年度の引き受けたのも正直なところ大変であり、赤坂まで企画会議や作業に通うことへの不安もなかったと言え、世界への好奇心が強かった。あれから9ヶ月、時間のやり繰りが大変だと思ったことは確かにありましたが、自分の中に枠を設けず、今までやってきたこと、自分には知らないことが沢山あることが分かり、よき人ときよき出会いにも恵まれました。